

東京武道館で杖道を観戦して思ったこと考えたこと

私は杖道という競技を今回初めて観戦した。まず、はじめに杖道の勝敗の付け方は、2組で白と赤で分かれているいわばダブルスのようなもので、決められている手順に沿って演技をし、最終的に演技している人たちのそばにいる審査員がどちらかの旗を挙げ拳がったものが勝利するという競技である。勝敗がつく要因は、杖の鋭さや、声などのパフォーマンス、間合いの正確さなどで判断される。剣道は明確に勝敗が決されるが、杖道は一般の人が見る限りではなかなか判断が難しいのではないかと感じた。杖の向きや形作りなど繊細さが求められる競技である。

では、私が実際に杖道を見た印象は、杖道という競技を始めて見たので最初は剣道との違いがわからなかった。しかし長く見ていると剣道と違う点はいくつも見つかった。例えば杖道はまず防具が一つもなく、杖が人に触れることもない。いわばこの競技はお互いのパフォーマンス対決とっていいだろう。集中力や繊細さが鍵になる競技である。試合の内容を見ていくと試合は声が張り合っている。片方が一つのパフォーマンスをすると、場は静止したかのように止まる。この静止した時私は一つの杖道の魅力なのではないかと感じた。杖を振る姿はまるで戦国時代の武士を見ているようだった。パフォーマンスを見ているとさまざまな杖の使い方が見えてきた。杖を下に下ろしたり、上に降ったり、前に突き出したり、横にしまったり、斜めに切ったりとさまざまである。さまざまな杖の使い方することで曲線が描かれているようで美しく感じた。4人が対峙しているなかで、動きに注目して見ると二つの組みで多少ズレが生じている。動き自体はほぼ変わらず、二人一組でチームを組んでいるということがよく分かった。実際に見ていると杖が人に当たってしまうのではないかと少し怖さもあるが、間近では止めることができ、これが確立されているのがほんとに素晴らしいと感じた。競技をしている人に注目して見ると、下は高校生の男女から上は定年退職された人とも伺える人もいて、年齢層が広いと感じた。さらに外国の方も競技をやられていた。外国の方もこの競技をする理由がなんとなくであるが今日見て分かった気がした。戦国時、刀を使っていた日本の武士への憧れでこの競技を始めたという人も少なくはないだろう。日本という国の繊細さ、集中力、礼を大事にするという国柄が実際に競技としてここに凝縮されているような気がした。私はこういった礼や集中力を大切にする競技は今後のスポーツ発展に関してはもっと競技人口が増えて欲しい競技であると感じる。実際に私がこの杖道というスポーツをやったどのようなパフォーマンスができるかはわからないが、このスポーツに触れるという点では、さまざまな大会に足を運び観戦するというのも一つの手ではないかと感じる。この授業を取るまで知らなかった競技なので、私もまだまだ乏しいが今回観戦したことをきっかけに周りの人たちに杖道という競技があるということをつたえていきたい。



